

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 入試要項やウェブサイトを通じて、社会に広く、学生受け入れ方針を公表する	→ (ウェブサイト閲覧者+入試要項発送者) ÷ 2		A			
2. 入学試験の都度、学生募集や入学者選抜が、上記の方針に沿って行われているかどうかを、内部評価する	→ 内部評価の開催回数		A			
3. 入試実行小委員会委員の人選をローテーションする	→ 各教員の委員就任平均回数		B			
4. 入学試験の都度、学生募集や入学者選抜についての実施状況についての内部評価を行う	→ 内部評価の開催回数		B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない
	(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(受け入れ方針) 受け入れる学生像について、入試要項やweb上で次のように公表している。 ①企業経営者・幹部、自治体等行政機関の経営管理者 ②企業やパブリックセクターの研究者 ③企業経営や自治体経営に高度な能力を持つシンクタンクのコンサルタント ④専門職大学院等において教育に従事する研究者教員もしくは実務家教員 (説明) 研究者養成に重きをおいてきた従来の人文・社会科学系の博士課程に対して、本課程では企業や行政機関に勤務して、高度な学術知識、手法を求めている人々に対して、博士課程レベルの教育を提供しようとしている。 進学希望のある学生に対して入試説明会を開催し、研究科委員長と研究科代表委員が、本研究科の目的や理念を進学希望者に直接、説明を行っている。進学希望者はここでの説明と将来、研究指導を担当する教員との事前の意思疎通を通じて、研究科への進学動機を明確にするように務める。

★ 小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 (説明) 本課程を志願する学生の特性を考慮して、年2回入試を行っている。学生募集については、WEB上に要項を掲載し、過去の入試問題も公開している。各志願者の専門分野での研究能力を試すための「専門論文」試験と、博士課程の研究に必須の英語能力を試す「外国語」試験を課し、さらに「口頭試問」を行って、研究を行うに相応しい資質を有するかどうかの判断資料としている。募集方法・入学者選抜は適切であると考えている。
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 (説明) 当初の予測より、志願者数は多く、また博士課程での勉学に相応しいと判断される志願者が多いので、定員をやや超過する学生が入学している。
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 毎年定期的に、入学者選抜制度につき、研究科委員会で検証している。
その他	

《評価指標データ》

入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
 科目等履修者の入学者数
 聴講生の入学者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	志願者数は予想以上に多く、また現実の入学許可者も多いので、効果は上がっていると考えられる。
小項目5.0.2	春秋2回の入試は、修了時期が春秋2回の当専門職課程学生には好都合と考えられる。過去の入試問題を公表しているが、これは、志願者にとって有益な情報であると共に、出題者側にとっても、問題の難易度レベルの維持という点で効果があると考えられる。
★ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

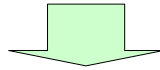
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	開設以来、定員を上回る学生が入学している。これは本課程の教育活性化の点で有益であるが、一部の教員にとって過重な教育負担となっている。教員組織の拡充、定員の再検討が必要である。
小項目5.0.4	春秋2回の入試は志願者にとってはメリットがあるが、定員管理、入試執行体制の面ではやや問題がある。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	学生数、その研究関心に沿った教員組織充実、入学定員の適切性を研究科委員会で検討する。
小項目5.0.4	入試方法の改善について、研究科委員会で検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○志願者数が多く、定員を上回る学生数が確保できている点は評価されますが、提供する教育環境に支障がないように留意すべきです。

【学内委員】

○受け入れる学生像を絞り、その代わり決めの細かい学生募集を行うことで、学生数の確保を図る戦略が窺われます。

○毎年定員を上回る学生が入学していることは、本博士課程の理念・目的が社会のニーズに合致しているとも考えられますが、恒常的な定員オーバーにより、教育・研究での支障や教員の負担が過重になっていないのか気になります。教員組織の拡充、定員の再検討について研究科委員会で検討することとしていますが、早い時期に望ましい方向性が打ち出されることを期待します。

○簡潔で的確な記述です。しかしながら、小項目5.0.3の在籍学生数などは数字を示す必要があります。経年の数字を表にして本シートに貼るつけるなどして自己点検・評価されることをお考えください。

○設定された目標の進捗評価が半数が「A」で達成されています。また、短年度の積み重ねの目標が多いので、中期的な目標もお考えください。

○なお、大学基準協会が留意すべき事項として、「部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」と基盤評価で示しています。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ・入学者数に合った教育環境の確保は最も重要な課題であり、これまで十分でなかったことを認識、ハード面（研究スペースの強化）、ソフト面（複数教員の関与の強化）について対応を実施予定。
- ・教員組織の拡充は実現したが、それでも一部の指導教員への偏りがある。学生の希望があり難しい問題だが、是正の方向で検討を進めたい。

- ・在籍学生数の推移は以下の通りである。

年度	2008		2009		2010		2011	
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
合計	6	8	12	14	17	20	16	16

- ・これまでの実績が積み上がってきており、これを踏まえた中期の目標が設定可能となっており手掛けることにしたい。